

高山市新火葬場建設基本構想

【平成 29 年 7 月策定】
ダイジェスト版

第 1 章 既存火葬場の現況

1. 市営火葬場、広域利用火葬場の概要

高山市営火葬場(西洞町)	火葬炉 3 基 動物炉(多目的炉)1 基 炉前告別兼収骨ホール 待合室 駐車場 8 台
高山市営久々野火葬場(久々野町)	火葬炉 2 基 動物炉(多目的炉)1 基 炉前室 1 告別室 1 収骨室 1 待合室 1 室 駐車場 20 台
高山市営荘川火葬場(荘川町)	火葬炉 1 基 休憩室 1 室 駐車場 5 台
光明苑(飛騨市古川町)	火葬炉 2 基 待合室 2 室 駐車場 18 台
松ヶ丘公園斎場(飛騨市神岡町)	火葬炉 2 基 待合室 2 室 駐車場 20 台

2. 火葬場の利用状況

- 火葬件数は、おおむね横ばいで推移しており市内合計で約 1, 100 件である。
- 火葬開始時間は、地域の慣習により正午前後に集中している。

火葬件数

単位:件、%

火葬場	平成24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	利用割合(平均)
高山火葬場	735	697	708	728	689	62.61%
久々野火葬場	288	283	291	320	279	25.72%
荘川火葬場	15	16	10	9	13	1.11%
光明苑(国府地域)	74	78	74	97	70	6.92%
松ヶ丘公園斎場(上宝・奥飛騨温泉郷)	45	55	32	45	30	3.64%
合計	1,157	1,129	1,115	1,199	1,081	100%

3. 高山火葬場の主な課題

- 高山火葬場は昭和 28 年に建設しており、施設の老朽化がすすんでいる。
- 火葬炉 3 基と動物炉 1 基があり、火葬炉 3 基に対して共用の炉前ホールがあるが、閉じられた空間でないため快適で厳かな葬送環境にあるとは言い難い。告別から収骨までを同じ炉前ホールにおいて行うため、参列者の交錯が起りやすく、葬送の個別化に対応できる機能が備わっていない。
- 火葬棟とは別棟で待合室があるが、施設がバリアフリー対応ではないことや十分な広さがないことなどから、おときなどの場として利用されることはなく、現代のニーズに合った待合の機能は果たせていない。
- 市内中心部から近く立地的な利便性は高いものの、施設に通じるアクセス道路が狭くバスや積雪時の通行が容易ではない。

4. 事業推進の前提事項

- ・高山火葬場に代わる新火葬場の早期整備をすすめる。
- ・新火葬場の整備にあたり、久々野火葬場、荘川火葬場、光明苑及び松ヶ丘公園斎場の4施設については、当面施設の利用を継続する。新火葬場の供用開始後、各施設の利用状況に大きな変化が見られた場合は、市民及び飛騨市と協議しながら、当該施設のあり方について検討をすすめる。
- ・新火葬場の候補地の選考に関することは、検討委員会における検討、市議会への協議及び市民意見の聴取を経て、透明性を重視しつつ段階的にすすめる。

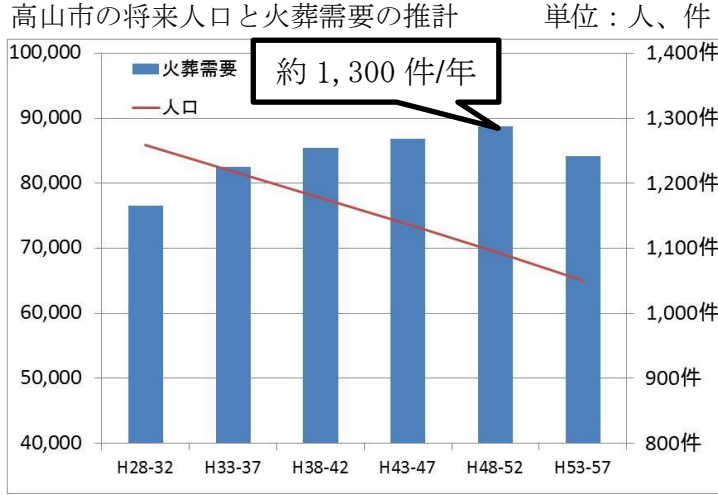
第2章 施設整備のコンセプト

基本コンセプト	
「ふるさと高山の自然と風土に抱かれた 巖かで温もりのある旅立ちの空間」	
基本方針	具体的な整備方針
① 故人の旅立ちにふさわしい 厳かな空間	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の喧騒を感じさせない、静かで落ち着いた空間づくり ・告別・収骨室及び待合室を火葬炉ごとに個室として整備し、各室間の防音に配慮 ・他の参列者との交錯が無いよう動線に配慮
② 見送る人々にとってやさしく 温もりのある空間	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある方や子どもなど、あらゆる方へ配慮した施設整備 ・市民が利用する部門はバリアフリー、原則平屋建てとする
③ 高山の自然・文化・伝統に 根差した高山らしい空間	<ul style="list-style-type: none"> ・原則木造化（火葬部門は内装の木質化） ・地元の木製家具の利用 ・高山の自然・文化・伝統が感じられる展示物
④ 公共施設としてふさわしい建物	
<ul style="list-style-type: none"> ・建設及び維持管理のコストを考慮 	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラ整備に高額なコストがかからないこと ・省エネルギーに配慮した施設整備 ・作業通路の確保などメンテナンスを考慮
<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが利用しやすい場所・建物 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもいやり駐車場・授乳室・多目的トイレの整備等 ・可動間仕切り等による待合室規模の調整 ・施設に親しみを持てる機能の整備（地域との融和）
<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境に配慮した施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模な森林開発の必要がないこと ・高効率な集じん設備を設置（建築物の高さは通常13mを超えるため、高さ制限のある区域指定に留意）
<ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民の生活環境への配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境に関する方針と同様の配慮が必要 ・施設に親しみを持てる機能の整備（地域との融和） ・周囲に植栽などによる緩衝帯を整備（隣地が山林である場合など土地の状況により調整） ・周囲に対する防音の配慮

第3章 火葬炉数の設定

1. 将来の火葬需要の予測

高山市の人口は減少傾向にあるが、年齢構成における高齢者層の増加や長寿命化により死亡者数は当面増加していき、平成48年から52年(令和18年から22年)にかけてピークとなる。



現在の高山火葬場の利用割合62.6%が継続されるとすると…

2. 必要な火葬炉数の算定

上記推計より、将来の高山火葬場(新火葬場)の火葬件数は最大814件と推計される。

高山火葬場における一日あたりの火葬件数実績と将来推計 単位：日数

	0件	1件	2件	3件	4件	5件	6件	7件	件数
過去5年平均	37.4	87.4	132.2	78.4	24.2	4.8	0.6	0.0	711.4件
累計日数	37.4	124.8	257.0	335.4	359.6	364.4	365.0	365.0	
将来推計(最大時)	26.9	73.3	119.6	93.5	39.4	10.3	1.8	0.2	814件
累計日数	26.9	100.2	219.8	313.4	352.8	363.1	364.8	365.0	

火葬時間が正午前後に集中する状況をふまえ、最大時でも概ね利用を希望される通りの時間帯(年353日、96.7%)に火葬を行うことができるよう、4基を新火葬場の火葬炉数とする。

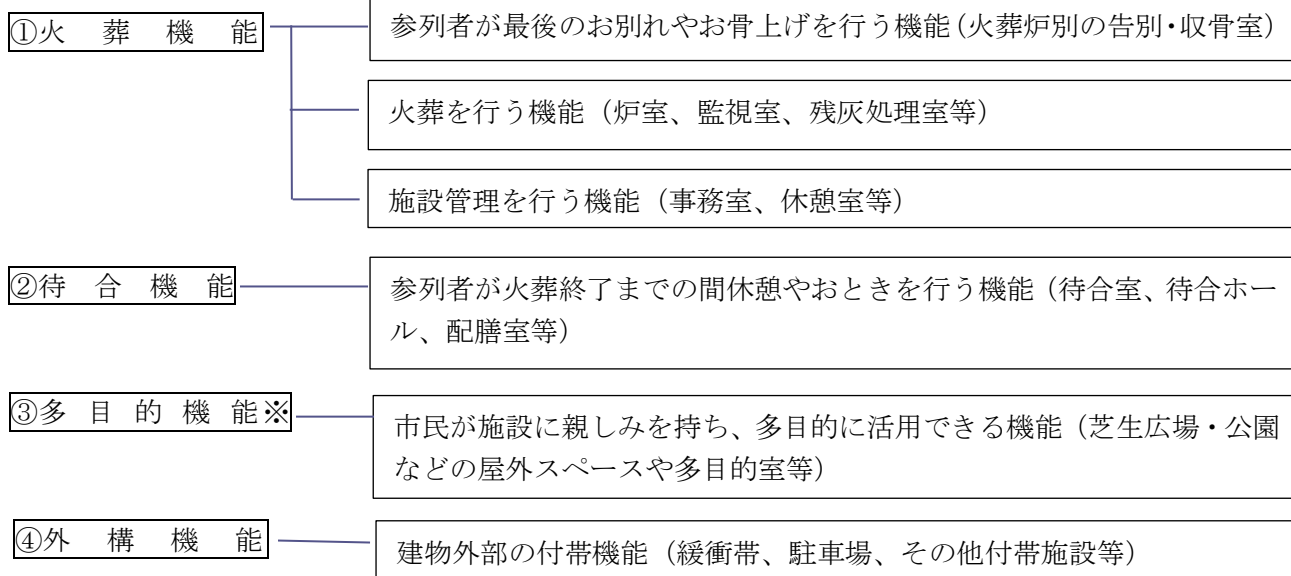
3. 火葬炉運転業務計画

運転業務計画(火葬タイムテーブル) 受付集中時間帯(11:30~13:00)に4件の火葬を想定

炉番	11:30	13:00	14:00	16:30
1号炉	告別④ 20min	火葬・冷却④ 80min	取骨④ 20min	告別⑧ 火葬・冷却⑧ 取骨⑧
2号炉	9:30 告別① 火葬・冷却① 取骨①	12:00 告別⑤ 火葬・冷却⑤ 取骨⑤	14:00 告別⑨ 火葬・冷却⑨ 取骨⑨	16:30 告別⑩ 火葬・冷却⑩ 取骨⑩
3号炉	10:00 告別② 火葬・冷却② 取骨②	12:30 告別⑥ 火葬・冷却⑥ 取骨⑥	14:30 告別⑩ 火葬・冷却⑩ 取骨⑩	17:00 告別⑩ 火葬・冷却⑩ 取骨⑩
4号炉	10:30 告別③ 火葬・冷却③ 取骨③	12:30 告別⑦ 火葬・冷却⑦ 取骨⑦	15:00	
動物炉	※随時火葬を実施			

第4章 施設の整備内容

1. 施設の基本的機能



※候補地の状況や予算等を勘案し、必要に応じて設ける機能とする。また、待合室における展示など待合機能に併せた整備や、緩衝帯を兼ねた芝生広場など外構機能に併せた整備も考慮する。

2. 延床面積及び敷地面積の試算

多目的機能として仮に多目的ホールを想定した場合の試算値

延床面積：約 3,700 m² 敷地面積：約 11,800 m²

- ・上記面積の試算値は、基本的機能を備えるために不足のない数値であり、候補地の選考や設計の必須条件とは位置付けず、柔軟に対応する。
- ・施設は平屋建てを基本とし、一部2階建ての部分に火葬設備の集じん機器等を設置する。

3. 建設地決定後の事業スケジュール

建設地決定後の事業スケジュールについて下記のとおり想定する。

火葬場建設事業スケジュール(想定)

	初年度	2年度目	3年度目～4年度目	5年度目
事業内容	環境影響評価 測量等調査	基本設計 詳細設計	造成等工事 火葬炉、建物本体建設 工事	旧施設解体工事

高山市新火葬場建設基本構想

策定年月 平成29年(2017年)7月
策定 高山市
原案検討 高山市新火葬場建設検討委員会
企画編集 市民保健部市民課 火葬場建設推進室
TEL0577-57-7755